

# 『ジャーニー 国境をこえて』

フランチェスカ・サンナ作、青山真知子訳

きじとら出版 (小学生／中学生)



“The Journey” © Flying Eye Books 2016  
Illustrations and Text by Francesca Sanna

美しいイラストのこの絵本は、他国に安全な暮らしを求める旅を、力強く胸をゆさぶる視点で、幅広い年代の読者に伝えてくれます。小さな子どもの目を通して語られる物語は、わたしたちの想像を超える決断のゆくえを追っていきます。それは、ある母親と二人の子どもが戦乱から逃れるため、やむをえず故郷と人々を後にする旅です。

絵本作家フランチェスカ・サンナは、イタリアの難民センターで二人の少女に出会い、この本の着想を得ました。そして、ヨーロッパにいる難民家族たちへのインタビューを始め、彼らの苦難と強さの証となるこの本を制作しました。

シンプルな物語と、意味深く印象的なイラストは、教室での話し合いを始める手助けになります。難民について、また、このような苦しい旅を切り抜けることはどのようなものかを、語りあってみましょう。この本では、故郷、戦争、身の危険を感じる事、心ならずも生活を変えなくてはならないこと、安心して暮らすことなどについても、問いを投げかけます。現在の難民の困難な状況を新たな視点で理解するきっかけとなるでしょう。

ワークシートの質問は、作品を読み解くための議論を活発にし、生徒たちが自分で考える力を養います。ここでは、じっくり読みたい場面をいくつか選びました。それぞれの場面で、初めに「なにが見えるかな」と問いかけ、生徒たちの自由な反応を促してください。質問の答えは、一人ずつや小グループで考えてもよいですし、本をプロジェクターで拡大して見せることができれば、クラス全体で話し合ってもよいでしょう。

## ◎関連する人権条項

「世界人権宣言」第 14 条（概略）

迫害を受ける人には、他の国に行き、保護を求める権利がある。

「児童の権利に関する条約」（子どもの権利条約）第 22 条（概略）

子どもが難民となった場合、特別な保護と援助を受ける権利がある。（難民とは、迫害や戦争、暴力のせいで、自分の国から逃げなくてははいけなくなった人のこと）

このワークシートはアムネスティ・インターナショナル英国支部が作成し、きじとら出版が翻訳しました。





表紙

- ・表紙を見て何に気づきますか？
- ・どんなお話が始まると思いますか？
- ・なぜ、人物の描かれ方が、小さかったり大きかったりするのでしょうか？
- ・この絵をみて、どんなふうに感じますか？



ふるさとの町は、海がちかい。

- ・この砂浜で遊んでみたいですか？
- ・この家族は幸せだと思いますか？

- ・なぜ、海の色が黒いのでしょうか？
- ・このお話の語り手はだれだと思いますか？
- ・次に、なにが起きると思いますか？



戦争が始まったんだ。

- ・なにが起きていますか？
- ・「めちゃくちゃ」とはどういう意味ですか？

- ・女の子はどこに行ったのでしょうか？
- ・この大きな黒い手は、なんだと思いますか？



そして、ある日、戦争は、とうさんをつばった。

### そして、ある日、戦争は、とうさんをつばった。

- なに見えますか？ 見えないものはなんですか？
- 黒い色は、なにを表しているのでしょうか？

- このページには1文しかありません。なぜでしょう？
- 「戦争は、とうさんをつばった」とは、どういう意味でしょうか？



### その日から、なにもかもが……

- 2つの絵に、どんなちがいがありますか？
- いなくなった人はだれですか？
- いま、この家族はどのような気持ちでしょうか？
- 窓から入ってきているのはなんでしょう？
- なぜ、大きな黒い手を作者は描いたのでしょうか？
- 「なにもかもが、ますますひどくなり」とはどのような意味でしょうか？



### そんなとき、

- 母親とその友だちは、ほかの国に逃げることに話をしていきます。よその国に逃げるとどんなふうになると思っているのでしょうか？

そんなとき、お母さんのともだちから聞いた。  
おとせいの人が戦争はなれ、よその国をめぐっているんだった。  
高い山がたくさんある、とても暑い国へ。



- 山の絵が明るい色合いで描かれているのはなぜでしょうか？
- 右ページの人たちは、なぜ走っているのでしょうか？
- なぜ、この人たちの顔は見えないのでしょうか？



町をはなれたくはないけれど、

- すべての持ち物を荷造りする母親は、どのような気持ちでいると思いますか？
- 子どもたちは、みんなにさよならを言っています。もし自分が友だちに別れを告げるとしたら、どんな気持ちになりますか？

- 母親は、「すごいぼうけんができる」と言います。あなたもそう思いますか？
- もし、自分が住む家を離れることになったら、なにをさみしく思うでしょう？



夜、だれにもみられないようにして、町をはなれ……

- 左のページではなにが起っていますか？
- 右のページではどうでしょう？

- この2つの絵で変わったことはなんですか？ それはなぜでしょう？
- 右のページで運転しているのはだれでしょう？
- なぜ、3人はかくれているのですか？



遠くへいくにつれ……

- なにが起きていますか？
- 色の明暗から伝わるものはありますか？

- なぜ、ものをうしろにのこしていかなくてはいけなくていいよか？
- 顔の表情をみてください。かれらはどんな気持ちでしょう？



そして、やっとたどりついた国境。

- なぜ、暗いのでしょうか？
- この場所をみて、どんな気分になりますか？

- 国境とはなんですか？
- なぜ、3人の姿はこれほど小さいのでしょうか？
- もしあなたがこの壁を前にしたら、どんな気持ちになりますか？



でも、どうしよう！

- 大きな番人が見下ろし、小さな3人が見上げています。なぜこのように対比されているのでしょうか？
- なぜ、国境をこえることはゆるされないのでしょうか？ゆるされるべきだと思いますか？
- 「いくところなんてない」。このあと、かれらはどうすると思いますか？



くらい森のなか、音がするたびに、びくっとする。

- 2つの絵のちがいを見つけましょう。
- 「かあさんは、ちっともこわがってなんかいないんだ」と子どもが言います。それは本当でしょうか？
- なぜ母親は、子どもが眠るまで泣かないでいるのでしょうか？



- 森のなかに手や目のかたちが見えますか？それらは、なにを意味するでしょう？
- もしあなたが、ここにいたら、どのような気持ちになりますか？



どなり声で目がさめる。

- おとぎ話では、森は魔法や危険がある場所として描かれます。ここにあるのは、魔法と危険のどちらでしょうか？
- 番人たちは、この家族をさがしてどうするつもりでしょうか？

- この番人や犬たちをどう思いますか？
- 3人が逃げている方向に、なにかが見えます。これは何者でしょう？ 森にとけこんでいるのはなぜでしょうか？
- あなたは、次にどうなるといいと思いますか？



むちゅうでにげていると、

- 男の人が、壁（国境）をこえる手伝いをしてくれます。この人はだれでしょう？ 母親は、なぜお金をはらったのでしょうか？

- 3人はいま、安全ですか？
- この物語のなかで、くらやみは良いものなのでしょうか？ 悪いものなのでしょうか？ あるいは両方でしょうか？



「旅は、まだ終わったわけじゃないわ」

- この絵を見て、どんな気持ちになりますか？
- 大勢の人が、小さなボートの前にいます。全員がのりこめると思いますか？

- 3人は安全でしょうか？ まだ危険ですか？ どんな危険がありますか？
- 鳥たちはどこに飛んでいくのでしょうか？



ボートにはのれたけれど、  
おおぜいの人で、ぎゅうぎゅうづめだ！

- ・海の下になにがありますか？
- ・このボートに乗っていたら、どんな気持ちになりますか？
- ・あなただったら、気持ちを落ち着かせるためになにをしますか？



ボートはゆれにゆれ。波は、どんどん、どんどん、天きくなる。  
海は、いつまでたっても終わらない。  
いつのまにか、新しいおはなしがはじまり、めざしている国のごとくなる。  
その国には、天き草の森があちこちにあって、  
どの森にも、おどりのすまな、やさしい妖精がいっぱいいて、  
戦争を終わらせる魔法の呪文をおしえてくれるんだった。

ボートはゆれにゆれ、

- ・波の色は暗く、妖精たちは明るい色です。なぜでしょう？
- ・ボートは小さく、波と妖精が大きいのはなぜでしょう？

- ・「いつのまにか、新しいおはなしがはじまり」ます。なぜでしょう？
- ・新しい国は、どんなところだと思いますか？



日がのぼり、

- ・ここはどこでしょう？
- ・なぜ、母親の顔だけ描かれているのでしょうか？
- ・灯台とはなんですか？ 灯台が象徴するものはなんでしょう？
- ・母親は、もう安全だと感じていますか？





いくつもの昼と、いくつもの夜がすぎ、

- 3人はどのくらい長く旅をしていると思いますか？ どんな気持ちでいるでしょう？ あなたがかねらの立場だったら、どのように感じますか？
- ボートではなく列車に乗っているのを見て、どのように感じますか？

- 鳥たちは、どこに飛んでいくのでしょうか？
- 列車の色が明るい赤なのはなぜでしょう？ この色から伝わる雰囲気はありますか？



鳥たちもおなじように、よその国へいこうとしている。

- さまざまな種類の鳥が同じ方向に飛んでいます、人とちがって、国境をこえる必要はありません。どう思いますか？
- なぜ、作者はこの家族3人を鳥に乗せたのでしょうか？
- この家族が安心してらせるようになったのかどうか、わからないまま、お話が終わります。なぜでしょう？

- この終わり方は好きですか？
- もしあなたが作者だったら、どのような結末にしますか？



## ◎本を読んだあとに



この絵本について | フランチェスカ・サンナ  
「ジャーニー 国境をこえて」は、多くの人々の経験談に基づいています。著者が  
イタリアの難民センターで出会った二人の女の子でした。二人の話を聞き、  
読んでくれた僕も涙がこぼれ落ちました。そして、もっと読みたいと思って、  
またまた涙がこぼれ落ちました。そして、またまた涙がこぼれ落ちました。それから約  
半年の2014年9月、スイスのワレントにあるアムネスティ・インターナショナル  
に呼び出され、あのときの経験の話を聞きにしたいと懇々と話になりました。  
そしてやがてからは、毎日のように「難民」や「難民」という言葉がながれてき  
ますが、その入ったものがどれほど安全な場所かについては、それぞれの国から  
話を聞くことはほとんどありません。その入った人々の話と、国にこめられた  
思いも、この絵本から想像していただけたらと思います。

この本は、作者が出会った難民の人たちの経験談に基づいたもので、このような旅が実際にあるのだと説明してください。

### 難民とは？

住む場所が安全でないために、故郷を離れなくてはいけない人のこと。作中の親子は、選択の余地なく故郷を離れ、この長く危険な旅に出ました。

- ・「ジャーニー」とは、旅のことです。  
この題名について、どう思いますか？
- ・この本のような旅に出る人たちをどのように思いますか？
- ・楽しい場面、悲しい場面はありましたか？
- ・この物語の登場人物のような人を知っていますか？  
人々はどのように接していますか？  
かれらは、故郷のなにを失ってさみしいと思いますか？
- ・難民について、どんなことを学びましたか？

### こんなこともしてみよう！

- 自分が住む家を離れ、新しい生活をはじめると見知らぬ国へ旅をしなくてはいけなくなったら、どんな気持ちになるか、絵や文章をかいてみましょう。
- 作者にきいてみたい質問を考えましょう。

### もっと知りたいときは……

世界人権宣言の全文は、外務省やアムネスティ日本のホームページで読むことができます。



\*このワークシートはアムネスティ・インターナショナル英国支部が作成し、きじとら出版が翻訳しました。

『ジャーニー 国境をこえて』

フランチェスカ・サンナ作、青山真知子訳、きじとら出版

“The Journey” © Flying Eye Books 2016

Illustrations and Text by Francesca Sanna

Japanese text by Machiko Aoyama

